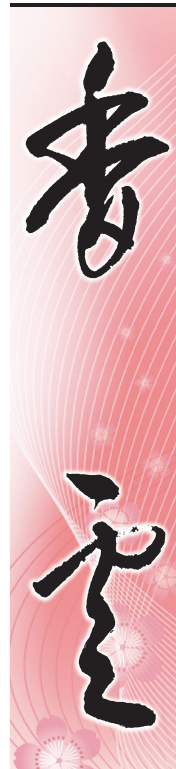




瑞穂国の原風景（秋田市豊岩から太平山を望む）



発行所

〒010-0946

秋田市川尻総社町14-6

総社神社

<http://sosha-j.jp>

## 奉 祝 天 皇 陛 下 御 即 位 ・ 御 大 礼 特 集

## 天皇陛下と歴史の源流



川尻 孝紀

総社神社 宮司

去る四月上皇陛下のご譲位により、五月一日に第百二十六代の新天皇陛下が践祚、元号も平成から令和に改元となりました。

天皇陛下の御即位を国民と共に心よりお祝い申し上げる次第です。

日本は、世界一古く、そして長い歴史を誇ってきました。その歴史は天皇のご祖先とされる天照大御神の御孫・邇邇藝命がこの地上を治めるために天から降臨されたという神話の世界に始まります。邇邇藝命は大御神から八咫瓊勾玉・八咫鏡・草薙剣の三種の神器を承るとともに、三つの教え（神勅）を授かりました。

★天照大御神の子孫が日本の君主として栄え続けること

★八咫鏡を大御神に接するのと同様に祀るべきこと

★人々の食の糧となる神聖な稲穂を授けること

以上の三大神勅といわれる天照大御神の教えを歴代天皇は守り続けられて、国民と共に歩まれ我が国の歴史・伝統・文化の中心に「象徴」として今もいらつしやいます。

我々国民は、先祖から今を生きる自分たちの命の血脈を、民族の象徴たる万世一系の天皇陛下に民族の歴史を重ね合わせるべきとき、その悠久なる連続する歴史のありがたさをひしひしと感ずることが出来ます。

さて、新天皇陛下のご即位にかかる諸儀礼は「御大礼」や「御大典」と称され国事行為や公的な儀式として国をあげて行われます。

特に儀式・祭祀の中核となるのは「即位礼」と「大嘗祭」です。

今回は、御即位奉祝の意義や大嘗祭について本紙面にてかかる儀式と行事について詳細に述べてみたいと思います。

一世一度の素晴らしい歴史と文化に出会える「御大礼」が伝統に則り厳粛に行われるよう祈つてやみません。

祭礼行事曆

平成三十一年元日～令和元年九月

一月

元旦 歳旦祭

十二日 ブラウブリッツ秋田  
必勝祈願祭

十四日 (成人の日) どんと祭  
餅つき行事奉仕

青年会・敬神婦人会  
月次祭

十九日 月次祭

二月

二日 稲荷神社初午祭  
(新川町・稲荷町)

三日 第六回節分祭  
豆まき神事

十一日 建国記念の日  
奉祝秋田県大会

十七日 肝煎町春祈禱祭  
祈年祭併せ月次祭

三月

二日 交通安全協会川尻支部  
安全祈願祭

十九日 月次祭

四月

六日 境内清掃打合せ会議

十日 交通安全協会旭南支部

安全祈願祭  
(旭南コミセン)

十一日 崇敬会理事会

十三日 第一回境内清掃奉仕  
ボイススカウト秋田

十四日 第31回育成会総会  
月次祭・崇敬会総会

十九日 青年会総会  
昭和祭・第二十八回

二十日 秋田県出身特攻隊  
慰霊祭

五月

一日 践祚改元『令和』  
践祚改元奉告祭

七日 神社総代会総会  
第二回境内清掃

十一日 春季例祭準備作業  
珍寶神社例祭

十三日 (毘沙門町)  
稲荷神社例祭(稲荷町)

十四日 中川口稲荷神社例祭  
春季例祭宵宮祭

十八日 春季例祭当日祭  
例祭片付け作業

二十日 山王中二年生職場体験  
二十一日

六月

三日 秋田県鳶土木連合会  
安全祈願祭

四日 川尻小学校ふるさと  
集會にて雅楽演奏

八日 第三回境内清掃  
鹿嶋祭り(西表町・毘沙

門町・肝煎町)  
月次祭

十九日 第二十四回秋田刑務所  
安全祈願祭

二十九日 夏越大祓式

七月

六日 氏青全国・東北大会  
(山形県)

十三日 第四回境内清掃  
月次祭

十九日 青年会例会・暑氣払い

八月

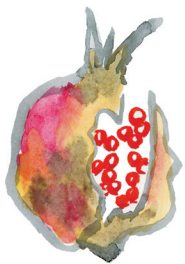
十一日 第五回境内清掃  
早駒神社例祭

十七日 川尻の夏祭り(境内)  
月次祭

九月

十三日 観月祭と邦楽の夕べ  
月次祭

十九日



ざくろ(子孫繁栄)

十月以降の祭礼行事予定

十月

十八日 秋季例祭宵宮祭

十九日 秋季例祭当日祭

二十日 即位礼当日奉告祭

十一月

十二日 臨時大祓式

十四～十五日 大嘗祭当日祭

十五日 七五三参り

十九日 月次祭  
干支大絵馬揮毫

十二月

第一日曜 干支大絵馬奉納式

十九日 月次祭  
神社大忘年会

下旬 煤払い

二十八日 餅つき行事

青年会・敬神婦人会  
奉仕

大晦日 師走大祓式



総社神社ご祭礼



# 御大<sup>ごたいれい</sup>礼<sup>れい</sup>の儀式と行事

(御即位に関する儀式の総称が「大<sup>たい</sup>礼<sup>れい</sup>」です。)



5月

## ○剣璽等承継の儀(一日)

皇位に即かれた天皇陛下は、皇居の宮殿で皇位の象徴である剣や勾玉、また国事に使用される印章などを受け継がれました。

## ○賢所の儀(一日～三日)

## ○皇霊殿神殿に奉告の儀(一日)

剣や勾玉の継承と時を同じくして、皇位の受け継がれた旨が、皇居の賢所(天照大御神)・皇霊殿(皇室のご先祖様)・神殿(天神地祇)のそれぞれに奉告されます。

5月

した。

## ○即位後朝見の儀(一日)

天皇陛下が、天皇として初めて国民の代表に会われる儀式です。陛下は宮殿に、三権の長や地方自治体の代表らを召されました。

## ○御即位一般参賀(四日)

皇居の宮殿東庭のベランダで、国民からの祝福を受けられました。

## ○賢所に期日奉告の儀(八日)

## ○皇霊殿神殿に期日奉告の儀(八日)

(八日)

賢所・皇霊殿・神殿のそれぞれに、即位礼と大嘗祭を行う期日を陛下みずから奉告されました。

## ○神宮・神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使派遣の儀(八日)

伊勢の神宮と、神武・孝明・明

5月

治・大正・昭和天皇の各御陵に、即位礼と大嘗祭の期日を奉告するため、陛下は勅使を派遣されました。

## ○神宮に奉幣の儀(十日)

## ○神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に奉幣の儀(十日)

(十日)

伊勢の神宮と、神武・孝明・明治・大正・昭和天皇の各御陵に、勅使は即位礼と大嘗祭の期日を奉告し、お供えを捧げました。

## ○斎田点定の儀(十三日)

大嘗祭に供えるお米は、日本の東西からそれぞれ選ばれた県の特別な田(斎田)で育てられます。

この日の儀式で斎田を設ける地方が宮中において占われ、令和の悠紀<sup>ゆき</sup>地方(東日本代表)は栃木県、主基<sup>すき</sup>地方(西日本代表)は京都府と定められました。

夏から秋まで

## ○大嘗宮地鎮祭

大嘗祭を行う予定地の皇居東御苑で、祭場となる大嘗宮を建設する前の地鎮祭を行います。

## ○斎田拔穂前一日大祓

それぞれ悠紀・主基両地方の斎田では、新穀を収穫する儀式の前日、陛下から遣わされた抜穂使をはじめ関係諸員のお祓いをします。

## ○斎田拔穂の儀

悠紀・主基両地方の斎田で、大嘗祭に供える新穀を収穫します。

## ○悠紀・主基両地方新穀共納

悠紀・主基の斎田で収穫された新穀が陛下のもとに納められます。

## ○即位礼当日賢所大前の儀(二十日)

即位礼を行うことを、儀式の当日、宮中三殿の賢所・皇霊殿・

10月

10月

神殿のそれぞれに陛下みずから奉告されます。

○即位礼当日皇霊殿・神殿に奉告の儀(二十二日)

○即位礼正殿の儀(二十二日)

皇居の正殿に設置された高御座において、天皇陛下が御即位を公に宣明されるとともに、列席した国内外の代表らがお祝いたします。中庭には儀式をいろいろの旗や雅楽奏者、装束を着た人々が並びます。

○祝賀御列の儀(二十二日)

即位礼の後、広く国民に御即位を披露され、祝福を受けられるため、皇居から赤坂御用地までお車でパレードが行われます。

○饗宴の儀(二十二、二十五、二十九、三十一日)

即位礼に参列した国内外の代表者らを4日間に分けて宮殿に招き、饗宴を催して御即位を披露され、祝意を受けられます。

○神宮に勅使発遣の儀(八日)

伊勢の神宮に大嘗祭を行うこ

11月

とを奉告してお供えを捧げるため、陛下は勅使を派遣されます。

○大嘗祭前二日御禊(十二日)

○大嘗祭前二日大祓(十二日)

大嘗祭の2日前、天皇皇后両陛下のお祓い(御禊)と、皇族方をはじめ関係諸員のお祓い(大祓)を行います。

○大嘗祭前一日鎮魂の儀(十三日)

○大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭(十三日)

○大嘗祭前二日大嘗宮鎮祭(十三日)

大嘗祭前日、すべての行事が滞りなく無事に行われるよう、天皇陛下はじめ関係諸員の安泰を祈り、大嘗宮の安寧を祈ります。

○大嘗祭当日神宮に奉幣の儀(十四日)

○大嘗祭当日賢所大御饌供進の儀(十四日)

○大嘗祭当日皇霊殿・神殿に奉告の儀(十四日)

大嘗祭当日、お祭りをを行うことを、伊勢の神宮と、宮中の賢所・皇霊殿・神殿のそれぞれに奉

11月

告します。

○大嘗宮の儀(十四、十五日)

天皇陛下が御即位の後、はじめて新穀を天照大御神と神々に供え、みずからも召し上がり、国や国民のためにその安寧と五穀豊穰などを感謝して、また祈られる儀式が大嘗祭です。悠紀地方のお供えを捧げる儀式は14日夜、主基地方のお供えを捧げる儀式は15日未明に、それぞれ大嘗宮の中の悠紀殿と主基殿で行われます。

○大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭(十六日)

大嘗祭の翌日、大嘗宮の安寧を感謝します。

○大饗の儀(十六、十八日)

大嘗祭で捧げられたお供えのお下がりである白酒黒酒などを参列者に陛下が賜り、ともに召し上がる祝宴が催されます。大嘗祭の直会です。古来の舞なども演じられ、ともに楽しんでお祝いします。

即位礼・大嘗祭の後

○即位礼及び大嘗祭後神宮に親詣の儀

○即位礼及び大嘗祭後神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に親詣の儀

伊勢の神宮と、神武・孝明・明治・大正・昭和天皇の各御陵に、陛下がみずから拝礼し、儀式の完遂を奉告されます。

○茶会

京都への行幸の際、古来皇室に御縁故の深い近畿地方の各界の代表らを京都御所に招いて、茶会が開かれます。

○即位礼及び大嘗祭後賢所に親詣の儀

○即位礼及び大嘗祭後皇霊殿・神殿に新詣の儀

○即位礼及び大嘗祭後賢所御神楽の儀

賢所・皇霊殿・神殿の三殿に陛下がみずから拝礼され、また、賢所に御神楽を奏します。

○大嘗祭後大嘗宮地鎮祭

大嘗宮撤去後、その跡地の地鎮祭を行います。

## 大嘗祭

毎年秋に天皇陛下は、その年に収穫された新穀を神々に捧げて国民の安寧と国の繁栄を祈られる「新嘗祭」を宮中で斎行されています。

新嘗祭は、平年十一月二十三日（勤労感謝の日）に全国の神社で行われていますが、新天皇が新たに皇位に即かれて最初の新嘗祭は「大嘗祭」と呼ばれ特別盛大に執り行われます。天皇御一代に一度限りの重要なお祭り、国を代表して行われます。

古代から稲作にかかる最も古い祭祀であり、国家形成過程における祭祀の発展も見受けられます。稲は神話に語られるとおり、天孫邇邇藝命が地上に降臨される際、皇祖天照大御神から授けられた「斎庭の稲穂」を以て地上の民に稲作が広められた事が新嘗祭の起源とされます。

以来歴代天皇の皇位継承の重要な祭祀として大嘗祭が発展してきました。おそらく皇室中心の祭祀が後に広く「悠紀」「主基」と言われる東西の地方が関わる事によって国家全体の重要祭祀として国家的発展をしてゆく経過が偲べれます。

古代王朝文化では「大嘗会」とも呼ばれ制度上、幾多ある年中行事の中でも唯一の「大祀」とされました。

前回、平成時代の大嘗祭は、今の上皇陛下が平成二年十一月二十二日から二十三日に皇居東御苑に「大嘗宮」が建立され古式ゆかしく厳粛に執り行われました。

令和の御代の大嘗祭は、今年十一月十四日夜から十五日未明に斎行される予定です。国を挙げての大儀式となることでしょう。

また大嘗祭では、東の悠紀地方（栃木県）と西の主基地方（京都府）の斎田で収穫された新穀が子供にされます。この悠紀と主基は古代から宮中に伝承される「亀卜」と呼ばれる亀の甲羅を焼いて占う神事が今回も行われました。

悠紀・主基地方のほか、近代では全国の都道府県からも特産の農水産の品々が「庭積机代物」として献納されるようになりました。

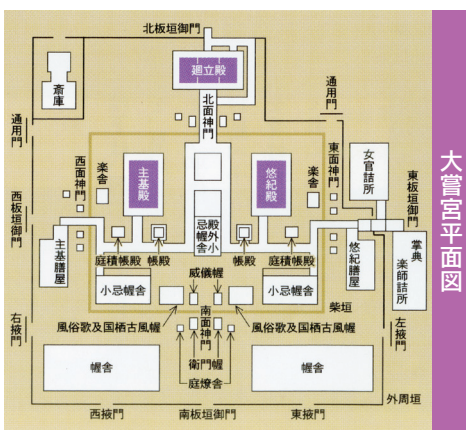
大嘗祭の最後には、お祝いの宴として「大饗」が行われ、国民の代表として祭典に参列した人々は、新天皇陛下とともに子供のお下がりをおいただきます。さらに十二単に装った舞姫五人が舞う古典芸能「五節

舞」などが披露され皆で楽しみます。いわゆる大嘗祭の直会です。

さらに、この年だけは、各地の神社でも大嘗祭当日に神前報告祭と新嘗祭が行われ、様々な奉祝行事が行われます。

大嘗祭二日前、宮中では、天皇皇后陛下や皇族方、関係諸員のお祓いをするにあたり、全国でも「臨時大祓」が行われます。

それぞれの地方のお祭りが、その土地、地域に暮らす人々の団結と願いにより続けられてきたように、大嘗祭は、日本という大きな共同体の団結によってこれからも続いてゆきます。天皇陛下と国民の固い絆は、各地の神社を通じて神々へ届くことでしょう。



## 年中祭礼・行事

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| 一月      | 歳旦祭<br>どんと祭          |
| 二月      | 節分祭・厄祓い              |
| 五月十八日   | 春季例祭宵宮祭              |
| 五月十九日   | 春季例祭当日祭              |
| 六月三十日   | 夏越大祓式                |
| 旧暦八月十五日 | 十五夜<br>観月祭と<br>邦楽の夕べ |
| 十月十八日   | 秋季例祭宵宮祭              |
| 十月十九日   | 秋季例祭当日祭              |
| 十一月十五日  | 七五三参り                |
| 十二月上旬   | 大絵馬奉納式               |
| 十二月下旬   | 煤払い式                 |
| 十二月下旬   | 餅搗き                  |
| 十二月大晦日  | 師走大祓式                |
| 毎月十九日   | 月次祭                  |





## スポーツを通じた 街づくり・人づくり・夢づくり

(株)ブラウブリッツ秋田 代表取締役 岩瀬 浩介

ブラウブリッツ秋田はクラブ設立10周年を迎えた。1965年に創部した前身のTDKサッカー部から54年という長い歴史がこのクラブには存在する。同サッカー部はリーマンショックがきっかけとなり2009シーズンをもって事実上の廃部が決定したが、民間のクラブを発足させ移行する形でその魂は受け継がれている。不況の煽りを受ける中、TDKはクラブ化に対して、メインスポンサーをはじめ多なるサポートをいただき、今なおユニホームの胸には「TDK」のロゴを身にまといっている。

クラブ化当初、1億円の資本計画に対し集まったのはわずか2300万。それに加えプロサッカークラブの経営ノウハウもなく、期待感とは裏腹に初年度から経営



試合で全力プレーの選手

それからわずか1年も経たずに社長に就任。その理由は自身の実体験があったからだ。茨城県鹿島地域で生まれた私は鹿島アントラーズの発足から街はみるみるうちに変貌し大きな起爆剤になったことをこの目と肌身で感じた。「必ず秋田でもできる」その実体験と確信を強みに私はとにかく営業に奔走した。経営が安定軌道に乗ったのは2014シーズンにJ3リーグが立ち上がり初年度から参入することになった頃だった。そして、2017シーズンにはリーグ初優勝を遂げた。しかし、県内にJ2規格を満たすスタジアムがないため昇格は叶わずにいたが、優勝や整備を求める18万人の署名が大きな原動力となり、照明設備と大型映像装置などが改修され暫定的ではあるがJ2規格を満たすことになった。

地元のプロクラブの存在意義は勝ち負けだけで測るものではない。各Jリーグクラブは育成組織を



学校の授業で講義する選手

持つっており、地元の子供たちを育成している。私たちは小、中、高の3つのカテゴリーを保有し一貫した強化を行っており、その成果は着実に出てきている。また、地元の子供たちが地元で夢を叶えられるということは、秋田が抱える若者離れや人口減少問題にも少なからず直結する。

また、秋田の魅力を発信するためには秋田に来るきっかけが必要になる。サッカーは各チームに熱心なサポーターが存在し、敵地での試合にも多くのサポーターが応援に駆



☆イラスト  
水墨画家 飯塚洋三

け付ける。J2に昇格すれば年間1万人以上、J1になれば2万人以上が秋田に訪れるであろう。

その他にも、サッカー少年団への巡回指導や学校給食への訪問、夢を叶えた選手たちがどう挫折を乗り越えてきたかを伝える授業などを行い、その回数は年間二百を超える。道半ばではあるが「ブラウブリッツがあるから…」と感謝されることも数多くなってきた。

「スポーツの力で秋田を元気に」をモットーに「スポーツを通じた街づくり・人づくり・夢づくり」の実現に向けて邁進するブラウブリッツ秋田に期待いただきたい。

## 令和元年 小学生児童による 総社の杜 俳句・川柳大会優秀作

### ☆優 秀

人々も木々もおめかし秋祭り

(川尻小六年 島本 紗莉)

秋ですか木の葉が風に問いかける

(川尻小六年 石黒 星衣)

総社から願いをかなえる風が吹く

(川尻小六年 大坂 優月)

総社の木歴史を感じるたたずまい

(川尻小六年 西村 直)

神々が木々に宿るよ見守るよ

(川尻小六年 小林宗一郎)

風にのり始まるおちばの運動会

(川尻小六年 本山 諒)

ねころがり身を葉につつむぎんなんたち

(川尻小六年 宮里 昊)

にぎやかにみんなが集う夏祭り

(川尻小五年 岩崎 優奈)

総社の杜絶えることないせみしぐれ

(川尻小五年 佐藤 朱音)

ふかふかの落ち葉が作るカーペット

(川尻小五年 今野 千礼)

令和へとつながぐタスキは総社へと

(旭南小五年 小野寺蒼士)

令和なり心をこめて願いごと

(旭南小五年 伊藤安祐実)

新時代共に一步をふみだそう

(旭南小五年 本庄 星空)

令和でも絶対わすれぬ戦争を

(旭南小六年 赤川 祐基)

新時代勉強やるぞ気持ちいい

(旭南小五年 石塚 康輝)

新元号新たな時代の始まりだ

(旭南小六年 志賀 碧生)

令和なりこれからの日々楽しみだ

(旭南小六年 畠山 未風)

令和なりなにがおこるか気になるな

(旭南小六年 土田 朝陽)

にぎやかな総社の祭りの音ひびく

(旭南小六年 熊井蓮桜奈)

以上十九句

氷原帯秋田俳句会 菅原孤秋 選

この度は小学校児童から全応募作品二百二十三点が寄せられ優秀作十九句を選出、本号芸芸欄に掲載致しました。今年も、児童たちの心素直で瑞々しい感性が光る素晴らしい作品がそろいました。地域の多くの皆様にご鑑賞いただけましたら幸いに存じます。

## 神道の知識 いろいろ

### ☆人生のまつり

日本人の生活は、神様との関係を大切に営まれてきました。子どもたちの健やかな成長を祈る初宮詣や七五三詣、結婚式、厄除けなど人生の節目に行う祭りを人生儀礼といえます。身近な神様との出会いの場が神社です。

### ★初宮詣

子どもは神様からの授かりもの。赤ちゃんが誕生して七日目の「お七夜」に赤ちゃんの名付けをするのが一般的です。赤ちゃんの名前を神様に報告するために命名書を神棚の近くに貼っておく習わしもあります。

赤ちゃんの健やかな成長を祈るため、初めて神社にお参りするのが初宮詣（お宮参り）。誕生後、三十日から百日前後に母方から贈られた晴れ着（祝着）をつけてお参りし、健やかな成長と幸せを祈ります。

### ★七五三詣

子どもの成長に感謝し、これからの無事を祈って神社にお参りする

のが七五三詣です。

三歳は「髪置」と呼ぶ男女とものお祝い、五歳は男子の「袴着」、七歳は女子の「帯解」のお祝いとされています。

一般には稲の刈り取りを終えた十一月十五日前後にお参りするものですが、雪の降る地方では一カ月程度早めに行われるところもあります。

### ★厄除

人生は山あり谷あり。古くから人々は、特に気をつけなければならぬ年回りを「厄年」と呼んできました。

一般に男性は数え年二十五歳、四十二歳、六十一歳。女性は数え年十九歳、三十三歳、三十七歳、六十一歳が「厄年」にあたります。

中でも男性の四十二歳、女性の三十三歳は特に災厄が起こりやすい「大厄」とされます。

この年齢は現代でも人生の大きな転機を迎える年回り。神社でお祈りを受け、神々のご加護で無事に過ごせるよう祈りましょう。

### ★成人式

昔、公家や武家では「元服」といって、成人になったことを祝い、初めて冠をつける儀式がありました。今では二十歳になった男女が大人として社会に認められ、祝福を受ける日として成人の日があります。無事に大人の仲間入りができたことを神様に報告しましょう。なお、神前で成人祭が行われている神社もあります。

### ★結婚式

伊邪那岐命・伊邪那美命の二神の夫婦の道に倣った厳粛な人生の門出が結婚式です。神様のはからいによつて、ひとつの縁がむすばれたことに感謝するとともに、お互いに尊敬し合いながら長い人生を歩み、子孫の繁栄をはかっていくことを神前に誓います。

## あとがき

御代替わりで令和元年のめでたい年を迎えました。大化以来二百四十八を数える元号です。

今上天皇は神武天皇以来百二十六代目に当たります。十月二十二日には「即位礼」、十一月十四・十五日には「大嘗祭」が行われます。一代一度の大祭で、国民挙つてお祝いする一大行事です。

何時の時代も自然災害は付きものですが、令和の時代は平和で健全な世であるように念じています。

社報「香雲」第六号をお届けします。今号は新時代に因んだ事柄を中心に据えた編集にしました。歴史を共有する良い機会であるよう願っています。

また、毎年総社神社で新年の祈願を行っている企業からもご寄稿賜りました。ご利益ありますよう祈っています。

（編集委員長 上村 敦記）

今号までの編集委員をご紹介します。

宮 司 川尻孝紀

責任役員 上村 敦 廣嶋禮治

総 代 佐藤三郎 芳賀龍平

崇 敬 会 飯塚洋三（挿絵）

